2021.9月号

住まいるレター ～わくわくしちゃう家づくり～

vol.041

一級建築設計事務所
(有)小倉建設
TEL:0847-33-1566
FAX:0847-33-1588
〒729-1405
広島県三原市大和町上徳良 4015
E-mail:ogu-ogu@mail.mcat.ne.jp

ブログ 更新中！ 三原市　3代目 検索

ホームページはこちら！ 三原市　小倉建設 検索

ごあいさつ マスク生活も1年以上経過し、暑い中でもマスクする習慣になってしまった今年の夏。いかがお過ごしでしょうか？小倉建設は住宅を主に手掛けていますが、この度友人の福島社長より新社屋の相談を受けました。今号ではその様子を紹介します。

社長 小倉一弥

いちごいちえ 一期一家 in三原市

株式会社 有斐園さま 新社屋工事 vol.1

▲右が福島社長、新社屋玄関の不思議な苔(水やり不要)の前にて

株式会社有斐園さまは40年前に先代の社長さまが造園工事業として創業され、現在は公共事業だけでなく、企業敷地内の植栽管理なども手掛けておられる企業さまです。

株式会社 有斐園の皆様（上棟時の様子）

福島社長の思い

- 一見事務所には見えないような外観にしたい。
- 事務所だけの機能ではなく、社員と楽しめる空間が欲しい。
- 2Fはグランピングして自然と調和した皆で楽しむ空間を作りたい。

そこで！ 木造住宅を専門としていた小倉建設の 小倉流グランピングデザイン

グランピングとは？

グラマラス(魅惑的な)とキャンピングを掛け合わせた造語で、テント設営や食事の準備などから解放されて優雅に自然体験することの呼称です。

POINT 01 部屋より広い2階のバルコニー

ルーフバルコニーから見た実際の様子

1階は事務所スペースとして使用。2階は13帖の部屋とBBQもできるウッドデッキを設けるプランを提案しました。バルコニーは全体で広さが18帖もあり、かなり広めです。**屋内部屋、半屋外ウッドデッキ、屋外バルコニーの3つの場所**が周囲の自然と融合すれば、グランピングできるくつろぎ空間が実現します。

福島社長が描かれた2階空間のイメージ

木造案のイメージパース

鉄骨案のイメージパース

POINT 02 会社でBBQ！

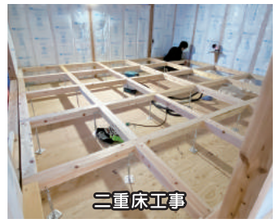
バルコニーでBBQをする場合、炎が一番の心配です。住宅で多く使用するバルコニーの床はプラスチック製で火に弱く、**火の粉が床に落ちるとそこから雨漏りする原因になります。**いくら夢のグランピングを実現するにしても建物の安全が第一でどんな仕様にするべきか考えました。

POINT 03 木造なのか鉄骨なのか

バルコニー床を燃えない素材で・・と考えた場合コンクリートで施工するしかない？と考えました。
となると建物が木造だと重量に不安があり、鉄骨造の可能性が高くなります。
考えた結果、鉄骨案は木造よりもかなりコストがかかってしまいます。それに福島社長も鉄骨造を望まれているわけでなく、「小倉さんらしさのある建物にして欲しい」と嬉しいお言葉をいただきました。これまで木造建築に携わってきた小倉らしい仕事をする為に、木造案で何とかならないか再度模索しました。

POINT 04 手間を惜しまない小倉クオリティ 部屋とベランダがバリアフリー！

住宅では部屋からバルコニーに出る際、一般的には床から高さ30cmぐらい防水のための壁があり出入りするには、またがないといけません。しかし今回の建物は屋内部屋、半屋外ウッドデッキ、屋外バルコニーがつながった空間のため、**部屋からデッキへの出入りは床に段差があると危険ですし、せっかくのグランピング空間が台無しです。**何とかならないかと大工と考えたのが通常の2階床から更に30cm高い位置にもう一つ別の床を組むことに。これで防水処理も解決し段差無しも実現。手間は掛かりますがバリアフリーの快適空間が実現しました。



二重床工事

BBQでも安心 バルコニー用 金属防水

木造でもBBQ可能なバルコニー床にするために金属防水という防水方法を採用しました！ この方法のメリットは、
①木造でも施工可能な軽量性
②金属製だから火に強い
③メンテナンスも10年保証があり安心の耐久性。
これで安心してベランダでBBQを楽しんでいただけます。

POINT 05 屋内で土足可能な階段？

こちらの階段は土足使用に加え、風雨に晒されたり、結露の不安もある場所です。**しかし木材は水に弱く土足使用だと木製階段では経年で傷みが激しくなる事が予想されます。**そこで耐久性の強い鉄骨階段を使用する事に。

さあ、どうする?!

しかし複雑な形状なうえ、壁や2階床は木造、1階床はコンクリートという素材が違う物同士を組み合わせる為、施工難易度が高い階段工事となりました。

オグ嫁の編集後記

このように福島社長の数々の思いがたっぷり込められた新社屋ですが、この建物を建てるのには大工は勿論、たくさんの職人の技術があって完成しています。そして想いを技術で完成形にするには、お施主さまや職人の窓口である小倉のナビゲートも欠かせません。次号は、いよいよ建物の様子をご紹介します。

おたのしみに！